



## 戦争の2年

もうすぐ戦争が勃発して2年となる。1914年8月初めの頃ほど、貧富を問わず、あらゆる階層の人々の心を当然の怒りが駆け抜けたことはなかった。当時、次から次へと宣戦布告がなされ、世界史にかつて見なかったほどの膨大な人数の志願兵が、この困難な時期に高揚した無垢の思いで黒白赤の三色旗<sup>1</sup>のもとに馳せ参じ、大事な祖国を防衛し、ともに敵に復讐するべく集結した。

この高揚した気持ちは、すぐに燃え尽きるような藁の火ではなく、ドイツ国民の内奥から出た、真正でまじめな、持続的なものであった。大勢の人々が、皇帝陛下と国土が困難を迎えているときにドイツ国民が一致して大元帥陛下を支えていることを示すべく、ベルリンの王宮の前に馳せ参じたのであった。ドイツ国民の感情がこのように盛り上がるのをじかに見た

1 ドイツ帝国国旗

中立国の人々は、このように高揚した気持ちで、やむなく手にすることになった武器を携え、その最高の財産を守ろうとする国民を打ち破ることは、どれほど圧倒的な武力をもってしても不可能だと理解した。1914年8月の時ほどわが国民がひとつになったことはなく、ベルリンの王宮前に参集した人々に向かって皇帝が発したことば「私はもはや党派というものを知らぬ」は、おそらくこの時の雰囲気をもっとも的確に言い当てているであろう。ドイツ帝国議会は戦争勃発時ほどすばらしい姿を見せたことはなく、全党派は諍いも憎しみもうち捨てて忘れ去り、巨額の戦争債が反対意見を見ることもなく承認された。時代の偉大さにはどうやら無感覚なわずかばかりの帝国議会議員を除けば、このことは今日まで変わっていない。同じように、比類なきわが軍の祖国への忠誠心も、銃後を守る人たちの犠牲心も変わってはいない。

7月28日には、オーストリア・ハンガリーはベオグラード差し金による皇太子暗殺に報復するためセルビアに宣戦布告を行った。これを受けてロシアは動員をかけ、以後つぎつぎに宣戦布告の応酬が続いた。8月1日にドイツで総動員令が発せられた。その日のうちにロシア軍はドイツとの国境線を越えた。8月2日には、宣戦布告もなしに、フランス軍の飛行機がニュルンベルクに爆弾を投下した。8月4日、英国はドイツに宣戦布告。6日にはオーストリア・ハンガリーはロシアに宣戦布告を送付、等々。

戦闘行動はほどなく始まった。8月7日には早くもフォン・エミッヒ將軍麾下の部隊がベルギーのリュティヒ要塞に突撃、奪取した。アルザスに侵入したフランス軍はミヒルハウゼンで敗退した。この初期の戦闘のあと、東西両前線での一連の勝利が続き、わが軍はいたる所で敵地敵国へとすばやく進撃することに成功した。この事実は、ことばで言い表すことができる以上の意味合いがある。

戦闘地域となっているフランス、ベルギー、ロシアの写真を見るがよい。そうすれば、どれほどわが軍の勇気によって大事なふるさとが守られて来たかを理解できるだろう。ロシア軍が東プロイセンに侵入した時に行った

残虐行為についての報道を読むがよい。そうすれば、勝利がわが方になかったとき、祖国の愛する人々にどれほどの運命が待ち受けることになったか想像がつこう。それゆえ、正にこの時にあたり、深く感謝しつつ祖国の勇敢なる戦友達に思いをいたし、わが愛するドイツと家族をこの試練から守ってくれていることに感謝すべきなのである。

## 収容所展望

犬の歌手「フェリックス」が、外で何度も追っ手から逃れたあげく、収容所から連れ去られた。残念ながら彼を連れ戻すことはできなかった。われわれ皆、この元気のよい犬を失って残念に思っている。修業時代に殴られたことが効いて、決して夜中にキャンキャン鳴いて安眠を妨害しなかったし、徳島の犬が皆一斉に吠えても、彼の声をそこに聞いたことはなかった。外見は、最初の縮れ毛の子羊から直毛の栄養の良いヤギに変身した。ネズミ取りにかけては、師匠で遊び友達のカブトより上手であった。カブトはいま、いなくなった仲間を悲しんでいるかのように、ふさぎ込んだ様子でうろつき回っている。木工所にひっそり暮らすトニーもほどなく姿を消し、フェリックスと同じ運命をたどることだろう。こんなにすぐに犬のことを書いたのは、犬の日々<sup>2</sup>のせいだ。熱暑にはまったくうんざりする。日本人も炎暑を避けて朝のうちに海に出かけ、夕方になってから戻ってくる。彼等は一般に最も暑い期間だけ戸外で泳ぐのである。

7月25日、富田川は記念日、いやむしろ記念の夕べであった。というのも昼間の間は、そもそも祭りがあるのかどうか疑われるほどであったから。夕方頃になってようやく、鉄道橋の上手に何台かの荷車がやってきて、あっという間にいくつもの屋台が並び、花火の準備が行われた。夕暮れになると、大きな橋の近くに提灯をさげた無数の船が集まってきた。9時頃、

2 原文 Hundstage、盛夏のこと

きれいな花火に点火されてから、色とりどりの明かりをつけた船が動きだし、ごちゃごちゃと入り乱れて行き交いながら中学校のところまで川を下り、またそこから戻って行くのであった。何艘かの船は、石油で炎を大きく上げて川面と兩岸を明るく照らしていた。両側には、観客が幾重にも列をなして集まっていた。音曲は太鼓とホラ貝の音に変わった。歩哨はその晩、特に熱心に垣根沿いに道路をさぐるように巡回し、悪賢い奴がこの機会を利用して外の雑踏に隠れることのないようにしていた。しかし、おそらくそんなことを考えるものはもはや誰もいないだろう。とりわけ最近、衛兵全員の銃剣演習を目の前で見せつけられたので、これから先、歩哨は反抗的な人間や脱走者をこの武器で正気に返らせることになるだろう。そうせざるを得なくなったのだ。この前、個人対決のつかみ合いでは衛兵の方が目にあざをこしらえて退散したからである。勝った方の男は、2週間の営倉がもうすぐ終わる。

### 第 47 回演奏会（1916 年 7 月 30 日）

- |                     |            |
|---------------------|------------|
| 1. 行進曲「万歳、ドイツマイスター」 | エルトル       |
| 2. 歌劇『ファウスト』幻想曲     | グノー        |
| 3. メヌエット            | ボッケリーニ     |
| 4. ワルツ「ウィーンの森の物語」   | ヨハン・シュトラウス |
| 5. インディアン風間奏曲「エイシャ」 | リンゼー       |

### 第 48 回演奏会（1916 年 8 月 6 日）

- |                           |        |
|---------------------------|--------|
| 1. 行進曲「ルイトポルト摂政公」         | シュレート  |
| 2. 歌劇『ルチア』幻想曲             | ドニゼッティ |
| 3. 歌曲「お前はなんと美しい」によるパラフレーズ | ヴァイト   |

- |                      |          |
|----------------------|----------|
| 4. ワルツ「スケートをする人々」    | ワルトトイフェル |
| 5. 「コロラド川」 アメリカ風ロマンス | イエッセル    |

## 図 書

この2週間の間にも図書室の蔵書が増えた。登録されたのは次のような新しい本である。

ゴットベルク	『大使館付き武官のフランスとベルギーの旅』
バーデン＝パウエル	『スパイとなって』
ヒルシュベルク＝ユラ	『正しき者の館』
ダーン・フェリックス	『ポアチエの悪しき尼僧たち』
ヒルンド	『ティル・リーメンシュナイダー』
ヒルンド	『ギービンガー』
ブルワー	『ポンペイ最後の日』
ブルバウム	『気晴らしのために』
ライクスナー	『結婚適齢期』
フォックス、J.	『ひとりぼっちのクリスマス・イブ』、 その他
ホーナング	『ロープの影』、その他

新着の図書はカタログへの追録として登録されている。追録はカタログの全ページの裏にのり付けされている。

## 青島戦（2）

### ホテルのおいしい食事

長い汽車旅行のあとで、トレンダーホテルのおいしい朝食は快適な気分転換となった。山東鉄道会社の中央駅に着くと、美味しいドイツビールをぐっと一杯飲むことができたのだが、それは済南府在住のドイツ人達が召集を受けてやってくるドイツ兵のために振る舞ってくれたものであった。

### 山東鉄道で

9時頃、ふたたび出発した。この列車にはさらに何人かの予備役の人が乗車していた。この中に奥さんを連れだオーストリア人画家がいた。彼自身は将校として青島に向かっていたのだが、その妻は赤十字で看護婦として働いていた。もうひとは、マニラから来たものの香港でイギリス官憲によってアメリカ船から下ろされ捕まってしまった52人の予備役のひとりであった。たまたま彼はスイス生まれであったので、その出生証明書を見せて、スイス人であると言い逃れできたのである。その集団の中のもうひとは、アメリカ人として通過したが、あとは全員残念ながら捕虜となってその場に残留することになってしまった。

### 山東の土地と人々

ここまでの旅行は、景観という点では本当につまらなく、単調なものであった。しかし済南府—青島間の眺めははるかに生き生きとしたものであった。済南府を過ぎると直ぐに旅人の目の前には、すぐそこから屹立する長く伸びた山脈が現れ、その麓には緑したたる草地と水田とコウリャン畑が広がり、多くの浅い大小の河川がその間を縫うように流れている。線路の両脇には樹木が植えられ、山東省全域でドイツの影響、ドイツ的な秩序と清潔さがすでに根を下ろしていることが明瞭に見て取れる。人々の感

じは良く、山東の住民は勤勉で良心的であり、ドイツ人がなした仕事を認めている。青島が商業都市として開かれたことは、山東省全域を活性化し、この土地のどこにいてもある程度の裕福さが見られる。鉄道の維持管理が良く、鉄道施設はお手本のものであり、粹な駅舎を見ると、ここではどの点を取っても卓越した仕事になされたことが感じ取れるのであった。

### ドイツ保護領で

戦争の暗雲は山東省にも垂れこめ始めてはいたが、鉄道輸送は相変わらず活発であった。戦争を感じさせる最初の兆候を見たのは、ドイツ保護領への境界に近づいたときであった。そこで初めて前哨の兵士の姿が見えたのである。どの駅にも少人数のグループでドイツ人がいた。その中には、私がつい最近上海で商社員や役人の姿で働いているのを見た人もいて、それが今や明るい色の夏用背広からカーキ色の軍服に着替え、カーキ色のヘルメットをかぶっているのがであった。汽車が停車しているのは短時間で、人々が手を振り、大きな声を上げる中、ふたたび発車し、目的地に近づいたのは午後5時頃であった。

### 青島到着

遠くに家々が初めて姿を現し、突堤と大きなクレーンのある大港が見えてきたとき、真夏の金色の陽光が最後の光を水の上に滑らせていた。町にやって来た人は、町の清潔さ、美しい街路、豪華な施設に自分が中国、全世界から汚物の巣窟と知られる中国、にいることをすっかり忘れるほどであった。たしかに、もし大勢の弁髪中国人の男達の姿から勘違いに気づかなければ、別荘風建築の現代的なドイツの町にやって来たと思っても差し支えないほどであった。

### ビスマルク兵営への行進

青島に到着すると直ぐにひとりの下士官の出迎えを受けた。かれは私た

ちを四列に並ばせ、手荷物ともどもビスマルク兵営まで引率していった。おそらく全部で20人だったと思うが、いい加減なようできて、これから起きることに思いをいたして神経を張りつめ、冗談を言ったり、口笛を吹きながら町を歩いて行進を始めた。すぐに分かったことだが、列の先頭に行く下士官自身予備役だった。腹がぱんぱん、ほっぺたは丸々としていて、ザンクト・ガレンの司祭の相貌と負けず劣らずという風情であった。この引率者がそれ相応の汗の跡をカーキ色の上衣に残しながら1時間半ほど歩いた後、私たちはビスマルク兵営にたどり着いた。町から少し離れた小高い丘の上に、その建物は手入れの行き届いた緑地の中にまるで絵のように建っていた。大きな手荷物を保管係に預けた後、再度町中で一夜を過ごすのも自由となったが、翌朝正7時には戻るように指示を受けた。長旅の後温かい湯につかり、もう一度羽布団の上で快適に眠る機会を逃したくなかったので、近くにいた人力車を呼び、セントラルホテルに行って、1晩の部屋を取ったのであった。

### 植民地での生活

私が青島を初めて見たのは1911年の晩夏のことであった。そのとき、植民地では海水浴客でにぎわっていた。東アジアのあらゆる場所から休暇を過ごす人たちがやってきて、砂浜を走り回ったり、海岸ホテル前の遊歩道で第三海兵大隊軍楽隊の楽しい響きに耳を傾けていた。道は手入れが行き届いていて、馬であれ、徒歩であれ、車であれ遠出におあつらえむきで、実際さまざまの人たちが盛んに利用していた。演劇、いろいろなスポーツの試合、海岸ホテルでの和やかなダンスパーティがあって、観光客にも町の人にも格好の気晴らしになっていた。東アジアのドイツ人の間で、ここは身体に良い気候とうまいビールと食事があることで人気の土地であった。外国人もこの地の清潔さと牧歌的な土地柄を評価し、短期間にしろ長期間にしろ中国に滞在期間中にこの東アジアの「宝石箱」を訪れることがなかった場合には、何かやり残しをしたような気持ちになるのであった。

## 日々のいとなみ

商業の面でも大きな成果をあげていた。東アジアにあるドイツならびに外国の商社の大きなところは、軒並み青島に店を構えていた。港湾施設とドックはお手本となるべきものであり、警察は模範的とみられていた。ここで作られたものはすべて、勤勉と綿密さによって企画されたものだった。中国人と外国人に特別関心を呼んだのは森林経営で、それは従来この地には全く知られていないものであった。成果を上げ、設備も充実した中国人向けの大学は、現地の人にドイツ文化と科学を伝えるためのものであった。この町の範囲は毎年広がって、1914年夏にはおそらく100棟が新たに建設中であった。どの領域でも活発な活動がみられ、絶えずより美しく、より良くしたいという願いが息づいていた。

こんな状況の中で、7月にヨーロッパ政治社会の地平線上に雷雲がわき上がったのであった。

## 戦争勃発と動員令

ヨーロッパでの戦争勃発の影響は青島でもすぐに現れた。7月31日には青島に戒厳令が敷かれ、その後8月2日に総動員令、予備役の召集と続いた。東アジア分遣隊は天津と北京の兵営に入った。諸々の歩兵堡壘には小部隊が配置され、第三海兵大隊の騎馬第5中隊は最初の巡察隊を青島郊外へ派遣した。砲艦の「ティーガー」「イルティス」「ルクス」は廃船となり、その火炮は北ドイツロイド汽船の「プリンツ・アイテル・フリードリヒ」を補助巡洋艦に改装するために使われた。8月5日には軍艦「エムデン」がロシア義勇艦隊のリャザンを拿捕して連れ帰った。この船は高速で走れたので、砲艦「ティーガー」と「コルモラン」の火炮で武装し、「コルモラン」の乗員は新しい補助巡洋艦「コルモラン」<sup>3</sup>に移った。8月9日付け通達によって、港のすべての燈火を消すことと建物の海側の窓に明かりを点けて

---

3 すなわち、拿捕されたロシア船はコルモランと改名され、補助巡洋艦になった。

はならないことになった。町はこの措置によって不気味な様相となった。そうは言うものの、通りにはまだ多数の人々の姿が見られた。海水浴客と敵側の外国人は居留地をすでに退去していた。

つづく



## シュピーゲル（鏡）

---

『トクシマ・アンツァイ  
ガー』第3巻第14号  
（1916年7月30日）  
ユーモア付録

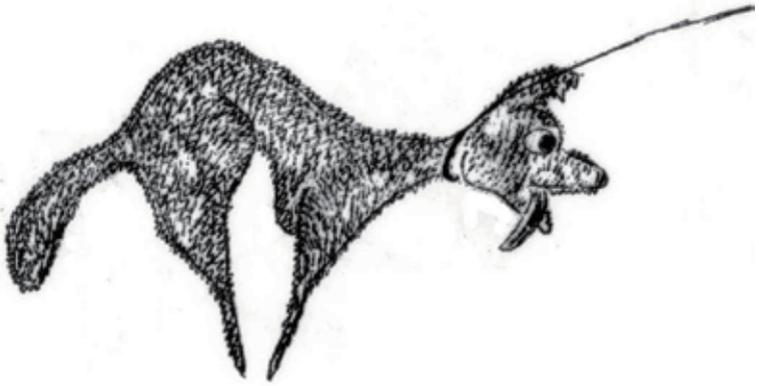
## スポーツ週間参加者への残念賞



この鍵をどうぞ。  
こいつは  
閉まらないんだが<sup>4</sup>、  
でも、これは  
君にとって  
手本になるだろう

---

4 原文の einschnappen には「ぱちんと締まる」のほかに「気を悪くする」という意味もある。



## フェリックス

きょう歌手は激高して  
ペガサスにまたがり  
怒りと不愉快を面に  
犬取りのことを歌う

こやつは日曜日の昼  
出しぬけに収容所に飛び込み  
忠実な黒犬のフェリックスを  
陰険な笑いを浮かべながら連れ去った

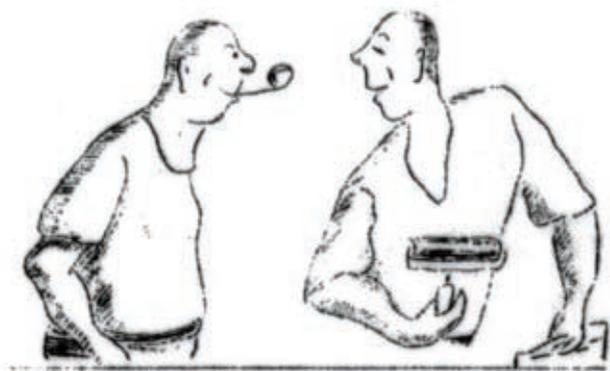
ああ、長い間我々と共にいた犬は  
いやいや別れていった。



短い生ののちに  
もう死が訪れたのだろうか

人生によくあることとは言え  
ここでもそんなことがあって良いわけではない  
ここに住みたがっていたやつ、  
そのそいつが出て行かなきゃならないなんて

ここに捕らわれている我らみんな、  
(例の歌手も同じだが)  
お前のかわりに行きたかったのだ  
ただし、犬取りはごめんだが



トクシマ・アンツアイガーは行けてるかい？  
行けてるわけないだろ。読み続けてるのは誰もいないんだから。

### おかしいところはどこ？

シュマーレンバッハ（細川）がブライトバッハ（太川）の親友だったら。

フライ（自由）がつかまったら。

試合でドルシュ（タラ）がフィッシャー（漁師）を捕まえ、ハース（兎）がレーヴェン（ライオン）を叩き、ラープ（鳥）がシンメル（白馬）と競走をすると。

ドルヒ（短刀）がもう 20 ヲ月以上しごかれて（研がれて）いなかったらとしたら。

---

注：これらはすべて人名に使われているている形容詞と普通名詞である。